

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ「学校力向上プラン」

堺市立 浜寺昭和 小学校
校長 中谷 喜大

中学校区におけるめざす子ども像

いきいきと学ぶ子の育成のため、学力調査等の詳細な分析を行い、学習指導における課題を小中学校で共有することで「確かな学び」を推進していく。また、それぞれの学年の子どもの発達段階に応じた理解度や学習能力の育成に向けた取組の充実に努めていく。そして、基礎基本的な学習内容の定着を確かなものとしていく。自ら学ぶ子どもの育成を小中の連携を深めながら、より推進していく。

令和6年度 重点目標

◎ 本校の教育目標 知徳体、調和のとれた児童の育成
重点目標 (1) 笑顔あふれる学びの場づくり (2) 総合的な学力の育成 (3) 信頼される教職員の育成

学びの現状

多くの児童は、授業をはじめ各種学習活動に落ち着いて前向きに取り組んでいる。実際、令和5年度「全国学習学力状況調査」「すくすくウォッチ」において、全学年、堺市平均、標準スコアを上回っている。また、ここ数年間は継続して安定した結果を残している。しかし、いくつかの課題も散見されている。子どもたちは、教師から与えられた課題には取り組むことができるが、自分から問題意識を持ち課題に取り組むことができない。そのため、子どもが自分事として学ぼうとする授業改善に取り組んでいくことが必要である。

体力の現状

本校は、児童数が多いにもかかわらず運動場が狭いという現状があり、限られた範囲の中で効率的に児童の運動量を確保していくことが課題である。全職員が、「堺市小学校体育指導の手引」に基づき意図的・計画的に体育指導を進めていくとともに、運動量の確保に意識した体育指導の取り組みを進めている。
また、12月に実施する浜寺公園でのマラソン大会やなわとび月間など積極的な、体力向上に取り組む予定である。

大項目	中項目	具体目標	評価項目 （取り組み、成果・状態） （ ●重点とする取り組み ）	評価方法・判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認		達成状況			
									自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	学力向上・授業改善	「主体的に学び合う児童の育成」のため、子どもが自分事として学ぶことができる授業改善	●子ども自身が学び合うことで、自分の考えを深めようとする課題の設定について研究する。	・子どもの取組の様子やノート、成果物 ・研究授業時における協議内容	・子どもの様子やノート、成果物 ・研究授業	適宜	○	・研究授業を通して、自分事に学ぶ合う授業について、教職員で共通理解をしている。その際、子どもたちのノートやワークシートの記述を見ながら、ふり返りの書く内容について考えている。また、全国学力調査の結果から課題を分析し、どのように授業改善するか検討している。	○	・授業の中で「分からない」「なぜだろう？」という子どもの問いから学びを自分事として取り組むことができるようになってきた。 ・「学習したことを自分なりにわかるようにノートに書いている。」の肯定評価は84％で評価が高かった。 ・全国学力調査の結果より、国語・算数の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」ともに平均正答率は全国・大阪平均より約5％上回っていた。	○	日ごろの授業の取組みなどが各種調査の結果につながっていると思います。学習内容が増えていることによる子どもたちの負担も考慮しながら、今後も適正な授業時数のもと、子どもたちにとって楽しく魅力ある学校作り・授業づくりに取り組んでください。また、体育館の空調設備のほか、校舎の老朽化が気になります。子どもたちにとって学びやすい環境づくりを進めていただきますたいです。
			ノート指導のふりかえりを充実させ、授業の中で学んだことをまとめたり、自分の課題を見つけたりすることができる。	「ノートに自分の学びをふり返ることができる」の肯定率を上げる。	「学校教育自己診断アンケート」	年度末	○		○			
			「全国学力調査」「すくすくウォッチ」において、事後指導を各学年で行う。	「全国学力診断テスト」「すくすくウォッチ」結果の分析を行う。	「全国学力診断テスト」「すくすくウォッチ」	テスト結果後	○		○			
	ICT活用	一人一台タブレット活用の推進	発達段階に応じたタブレット活用を進め、各学年でつきたいICTスキルを計画的に指導する。	「タブレットを学習で活用 することができる」で肯定評価80％以上	「学校教育自己診断アンケート」	年度末	○	・各学年でドリルパーク、発表ノート、teams など計画的に取り組んでいる。	○	・各学年でタブレットを活用した授業に取り組んだ。アンケートの肯定評価は96％であった。	○	
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	道徳教育の計画的実践 学校図書館の活性化 あいさつへの取り組みの充実	計画的・継続的に研修をおこない、道徳教育の充実を図る。 全クラス、道徳の授業を1回公開する	「全国学力診断テスト」「すくすくウォッチ」アンケート結果の分析。	「全国学力診断テスト」「すくすくウォッチ」アンケート	年度末	○	・全クラスで道徳の授業を参観日などの機会に公開した。 ・休み時間も司書担当が図書館を開館するようにした。 ・自ら進んで挨拶ができているかななどの内容を含む「昭和の約束」を児童が意識できているか自己評価するため、「ここにチェック」を実施している。	○	・道徳科の授業を中心に学校生活の様々な場面で、児童が自分事として考えられるような活動を設けるようにした。 ・児童が積極的にあいさつができるよう、代表委員会	○	登下校中の子どもたちのあいさつが増えました。言葉づかいと同じで、挨拶も大人が手本となり、さらにあいさつの輪が広がるように学校・地域・家庭で取り組
			週に1回程度の読書タイムを設定し、意欲的に読書する児童を育成する。	具体的な徹底方法の取り組み。	実践報告	毎学期	○		○			
			あいさつについて職員の積極的な声かけと指導の工夫をおこなう。	アンケート「自分からすすんであいさつをしている。」で肯定評価85％以上の結果	「学校教育自己診断アンケート」	年度末	○		○			

		いじめ防止の取り組み	●にここチェック・いじめ防止アンケートの結果による指導の徹底を図る。	指導結果のチェックと100%の問題解決。	にここチェック・いじめ防止アンケート	毎月	○	・いじめ防止アンケートを行い、早急に聞き取りを行い、指導と事後の解決確認を行っている。		○	が正門に立ち「あいさつ運動」を行った。 ・いじめ防止アンケートを通して、児童間トラブルについて早急に事実確認を行い、必ず指導と事後の解決確認を行った。また、今年度の児童についての出来事を確実に引き継ぐよう記録として残している。	○	んでいきたいです。 いじめ防止については、子どものアンケートを活用して学校が迅速に対応しているということがわかりました。問題が深刻化しないよう、今後も子どもたちの様子を見守り、早期発見にも努めていただきたいと思います。
	体力の向上	「小学校体育指導の手引」に基づいた体育指導の実践 安全と運動量を確保した体育指導の実践	意図的・計画的に指導を行い体育指導の充実を図る。 ●安全と運動量を十分に確保した体育指導の充実を図る。 駆け足への取り組みを通して、基礎体力の向上を図る。	アンケート「運動することが好きだ」で肯定評価80%以上の結果。 アンケート「運動することが好きだ」で肯定評価80%以上の結果。	「学校教育自己診断アンケート」 「学校教育自己診断アンケート」	年度末 年度末	○ ○	「小学校体育指導の手引き」に基づいて、計画的に指導を行っている。安全面に気を付けて指導を工夫しながら進めている。 駆け足の取り組み11月12月だけではなく年間通して継続して行えるという。 ○		○ ○	各学年で「小学校体育指導の手引き」に基づいて指導を行うことで系統立てた実技指導ができ、個々の技能が高まった。全体的な基礎体力を高めるために、駆け足や縄跳びなどの取り組みを年間通して行っていけるとよい。アンケートでの肯定評価は82%だった。	○ ○	学校内外で日常的に運動できる環境があることで、体力向上が促進され、運動が好きだと思う児童の割合も高くなっているのではないだろうか。一方で、骨折など大きなケガの心配もあります。今後も、体力向上と安全指導を継続していただきたいと思います。
学校力の向上	信頼される教職員・学校	家庭・地域とともに子どもを支える学校づくりの推進 学校情報の積極的な発信	地域人材を活用し、家庭・地域とともに子どもを支える学校づくりを進める。	家庭・地域とともに取り組みを進める。	実践報告	年度末	○	地域の施設見学や出前授業などを実施。		○	地域の施設見学以外に、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きして授業を実施することができた。またPTA活動では、給食試食会を開催し、学校給食について意見交流を行うことができた。	○	認知症キッズサポーター講座や、地域の高齢者施設・地域会館などの素材を活用し、学校内だけでなく学校外のものや人と関わって子どもたちが学べる取組みを今後も続けていきたいとします。
			学校通信やホームページを活用。学校の取り組みや授業の様子を発信する。	学校HPの毎日の更新をめざす。	実践報告	毎学期	○	日ごろの学校生活や学年行事などの様子を発信している。		○	学校ホームページや校報を通して、日々の学校の様子を保護者・地域に発信することができた。	○	

校長より（年度末）

「学び」については、「なぜだろう」「知りたい」という子どもの思いをもとに、自分の学びをふり返ることのできるノート指導の充実に努めたことにより、自ら学ぼうとする態度が養われ、自分の考えを深め表現する力が向上してきている。こうした力をもとに、子ども同士で学び合う場を多く設定し、互いに自分の考えを深め合えるよう努めていきたい。
「体力」については、子どもたちが進んで運動に向き合う姿が見られた。6年間を系統立てた体育の授業の工夫改善をに努めるとともに、ふりかえりプリントやなわとびカードを活用し、子ども自身に気づきをあたえ、体力づくりにつながる取組を進め、またマラソン大会に向け、持久走の充実を図った。休み時間には、各学年が活動できる場所を確保し、外遊びで子どもたちがしっかりと身体を動かせるよう取り組んだ。

学校関係者評価者から（年度末）

昨今の子どもたちを取り巻く様々な環境や教育施策などをふまえ、学校が工夫して教育活動に取り組んでこられたことがわかりました。浜寺昭和小学校が「これがあるから学校に行きたい」というような特色・魅力ある教育活動を進められるよう、地域・学校・家庭が今後も協力していくことが大切だと思います。